

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり



1970 年 (昭和 45 年) 生まれ 県立君津高卒
専修大卒、早稲田大大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax : 0476-36-7802

HP : <http://www.iwai-y.jp> メール : mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)



blog



facebook

鎌ヶ谷本埜線バイパス 速度超過取締りに本腰

今年 3 月に開通となった県道鎌ヶ谷本埜線バイパス。直線道路が続くことから、法定速度を超過する車両が絶えない中、違反車両の取締りに力が入られています。

●車両速度のギャップが重大事故を招く可能性

県道鎌ヶ谷本埜線バイパスは、栄町安食と印西市いには野を結ぶ新設道路。開通から 5 か月余りが経過しましたが、栄町への週末観光客の増加、成田へと繋がる県道成田安食線の通行量の増加など、すでに開通の効果が表れています。流入人口が増加傾向にある栄町にとっては、移住定住のさらなる促進に繋がっていききたいところです。

さて、問題となっているのは、バイパス道を通行する速度超過車両です。制限速度標識が設置されていない、同道の最高速度は時速 60 キロですが、それを大幅に超えて走る車両が多く見受けられます。水田地帯を通り抜ける同バイパスは、農作業車等の地元車両が低速で横断するケースが少なくなく、車両速度のギャップが重大事故を招かないかと懸念の声が上がっているのです。

●速度取締り強化 可搬式オービス導入か

そんな中で始まったのが、県道鎌ヶ谷本埜線バイパスでの速度取締りです。沿線住民の方からの話を受け、7 月末に関係機関に問い合わせたところ、6 月から 7 月にかけて複数回の速度取締りを実施しているとの回答。同バイパスには



車両を待機させる適切な場所がないことから、可搬式 (移動式) オービスによる取締りであると思われる。こうした取締りの実施が周知されることで、速度違反車両の減少、ひいては事故防止に繋がることを期待しています。

●旧ナリタヤ前に矢印信号機「年度内設置したい」



ところで、鎌ヶ谷本埜線バイパスの開通により、旧ナリタヤ前の交差点にて、右折渋滞が発生するようになったことも大きな問題。バイパス道を通行し成田方面へと抜ける車両が増えたため、酒直台方向から同交差点を右折し、安食駅方向へと進む車両の滞留が深刻となっているのです。

千葉県警に対し、地元自治体である栄町が右折矢印信号機導入等の渋滞対策の実施を要望してきたことに加え、地元町議からも複数、同様の声が上がっていると聞いています。岩井と県警との間で重ねてきた話し合いでは、「今年度中に右折矢印信号機を設置したいと考えている」との回答を得ているところですが、9 月県議会本会議でも再びこの問題を取り上げ、早期設置の実現と安全対策の強化を求めてまいります。

複雑な環境に育つ多くの生徒 定時制高校の現実

●定時制生徒数8万人 かつての4分の1に

県内北西部にある、県立A定時制高校（以下、定時制）を訪れたのは7月中旬のこと。同校に通う生徒の保護者を通じて、学校施設の問題についての相談を受けたのがきっかけだ。

同校は、午前部・午後部・夜間部から成り立つ三部制の定時制。通常は4年間かけて卒業するところ、単位取得によって3年間で卒業することもできるようになっている。通信制高校に通う生徒が20万人を超える一方、定時制の生徒数は減少の一途を辿り、現在は全国で8万人足らずである。

定時制という、かつては「不良の集まり」とのイメージもあったと思うが、今は一変して、どちらかというとおとなしそうな生徒の姿が目立つ。全日制高校との比較で多いのは不登校だった生徒で、A高校でも中学時代に不登校経験がある生徒は少なくない。定時制は、いじめやうつ症状などにより家にひきこもっていた生徒が、学び直しをする場としての意味合いが強くなっているのだ。

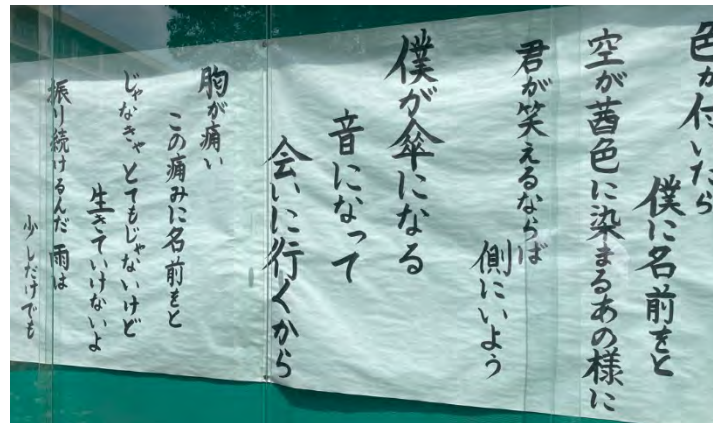
●「保護者より多い生徒の収入が家計の支え」

定時制を語る上で外せないのは、生徒を取り巻く家庭環境の複雑さである。

生活保護世帯やひとり親家庭などで、経済的に恵まれない家庭の生徒は珍しくなく、1日3食どころか、1食すらままならない家庭もあるという。「保護者よりも多い生徒の収入が家計の支えとなっている」「保護者が精神疾患を患っていて、生徒が面倒を見なければならない」などは、子が過大な負担を背負うヤングケアラーの側面が否定できない。家庭

内での生徒への虐待はもちろん、家族で食卓を囲むことがない家庭環境も子どもたちを追い込み、結果、オーバードーズ（医薬品の多量摂取）やリストカット等のトラブルが発生してしまう現実がある。

ただ、救われるのは教諭陣が頼もしいことだ。こうした事情を知りつつ、志願して異動してきた先生も少なくなく、親身に対応されている。一方、県立高の特別教室のエアコンは、未だPTA負担で設置されているというのが実態だが、経済的に困窮する世帯が少なくないため、A高校には整備されていない。県費によるエアコン設置が進められているところだが、同校への特別な配慮を求めている。



さて、同校の校門をくぐった先の掲示板に見つけた、Mrs. GREEN APPLE「umbrella」の歌詞。

「君が笑えるならば側にいよう

僕が傘になる 音になって…」

歌詞の意味と必死に家庭を支える生徒の姿を想像していたら、目頭が熱くなってきた。かつてヤングケアラーだった一人として、彼らを強く応援する。

